



「新病院に向けて」

病院事業管理者
河合 伸也

医療が高度化・多様化するなかで、国は医療費の総枠を抑制する政策をとっており、その影響は全国各地で病院経営の圧縮や医師不足といった形で表れてきています。

山陽小野田市が合併して、昨年6月の「病院事業将来構想検討委員会」の答申では、2つの病院を統合して、新病院の建設が求められました。現在、全国の病院、殊に自治体病院が経営の危機に瀕していることは十分に承知しながらも、微力ながら郷里の病院のお役に立つことがあればと思い、昨年7月に病院局長に就任しました。

まずは、かねてから不良債務を抱えて経営不振と医師不足に悩む山陽市民病院を主な拠点として、私自身自らも診療を開始しました。当初は新病院が完成するまでは、単年度収支をほぼ均衡に保ちながら、多額の負債を返済していく方針でした。元来、自治体病院は住民の安心の拠点であって、むしろ福祉的に考えるべきであり、経営面だけから議論することは望ましくないと思っていました。

しかし、病院の内情を知れば知るほど、このまま診療を続けておくことは道義的に望ましくないと思い始めました。慣れてくると、気がつきにくいのですが、新たに観察すると、施設面での不安が拭えず、このまま患者様に入院していただくことは、結果的に大きい信頼の失墜につながる事態が生じる可能性が高いと判断せざるを得ません。

病院は診療とともに安心できる療養環境を提供する場です。患者様の安全を確保す

るために、例えば人目につかない病院の天井裏には数多くの配線・配管（酸素、吸引、ナースコールなど）があります。しかし、それらが一齐に朽ちてくる兆候が見えるようになりました。経営が逼迫すると、本格的な改修よりも、患者様に見える表面的な場所を主体に、その場しのぎの補修をするにとどめざるを得なくなり、心臓や大血管に相当する施設の重要な部分の修理には手が回っておらず、施設の機能はもはや限界に近づいています。裏方では職員の気持ちは懸命に持ちこたえておりますが、その緊張も長くは続かない様子です。もはや全面的な建て替えをせずに病院を維持することは、人道的に行ってはいけない、というのが率直な想いです。

大規模な改修には、新病院の建設原資に相当する経費を要します。そこで、できるだけ早い時期に新病院を建設する方策を考えるべく、今年7月に「新病院建設構想検討委員会」を立ち上げて新病院への道を早く進める方向に切り替えました。この委員会において山陽市民病院の現状を説明すると、ご理解いただける委員の方々からは、早急にこの病院を休止することを強く勧められました。

病院を休止すれば入院患者様や近隣の外来患者様が困られることは、痛いようにわかります。心苦しいけれども、信頼を裏切らないことが職業人としての務めである、と落ち込む気持ちを自分に言い聞かせながらの選択です。

今後は、できるだけ早く新病院の建設を進めながら、地域医療体制の整備に力を注ごうと思っています。市民みなさんのご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。